

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 嶺南学園 敦賀気比高等学校附属中学校  
 種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )  
 住所 〒914-8558  
福井県敦賀市沓見164-1  
 E-mail: kyoumu@tsurugakehi.ed.jp  
 Website: www.tsurugakehi.ed.jp  
 児童生徒数：男子 54名 女子 26名 合計 80名  
 児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

# 総合学習「ふるさと敦賀塾」の活動について

## 活動体制

1年～3年の全校生徒80名を8つに分け、学年混合の縦割り班を作り、班別に研究テーマを決定し、班ごとにやりたい活動について話し合いを行い、活動した。1つの班は9～10名で構成されている。縦割り班の活動にしたのは、ESD教育で最も重要視されている「持続」を意識しているからである。上級生から下級生に向かってそれぞれの保全の方法などについて語り継いでいくことで、活動を続けていくことが可能だと考えている。

## 各班の活動テーマ

- 1班 中池見湿地の水生生物・・・絶滅危惧種「ホトケドジョウ」の調査、ならびにアメリカザリガニの駆除を通して生物多様性のすばらしさについて探求する。
- 2班 中池見湿地の水質調査・・・湿地内の各地点でのpHや導電率などを比較し、水環境を守るための調査を行い、多様な生き物をはぐむ水の偉大さを実感する。
- 3班 中池見の古民家での生活・・・田植えや古民家での生活を体験し、便利な現代との比較を通して、持続発展的な暮らしとは何かについて考察する。
- 4班 中池見湿地の外来植物除去・・・中池見湿地の在来種を守るためにセイダカアワダチソウなどの外来種を除去し、在来種を保護する活動をとおして、ラムサール条約に登録された意味の深さを考える。
- 5班 中池見湿地で食べられるもの・・・里山の自然を守るためには人々が適度に使うことが大事であることを知り、中池見湿地で採取したものを調理してみる。
- 6班 敦賀の海・・・自ら釣りをすることで地元の海のすばらしさを大いに楽しみ、その海を守ることにについて考える。
- 7班 敦賀市の自転車観光マップ・・・電信柱に貼ってある海拔の高さを頼りに高低差を測り自転車マップを作る。
- 8班 杉原千畝と人道港・・・リトアニア大使としてユダヤ人に「命のビザ」を発行した杉原千畝の足跡をたどり、国際化について考える。

## 活動内容

◎5月1日(木)午前 春のフィールドワーク 春のフィールドワークは、全校生徒で中池見湿地に向かい、5班がまとめるセイヨウタンポポ(外来種)とセイタカタンポポ(在来種)の分布調査を全部の班が手伝い、外来種除去に当たった。活動の狙いとしては、タンポポという身近な植物をとおして、環境保全のお手伝いができるという体験を通して、身の回りの環境について意識を持たせたいということがあった。ただし2班は、水質調査に時間がかかるので、タンポポの除去は行わず、水質調査を行った。



### 【2班】水質調査 生徒感想より

・各地点において、①～⑨の9つの項目を計測しました。

①気温②水温③地温④水のpH⑤地中のpH ⑥塩分濃度⑦導電率⑧透明度⑨水の色の調査

・水質は、各地点で大きく異なりましたが、前日の雨の影響もあってか、pHは最大で6.4と全て弱酸性でした。透明度測定では、100cmを超えて測定不能となるほど透明な水質の地点もありました。

・毎年、春の観察会では、バイパスに近い地点で塩分濃度が確認されています。これは冬にバイパスにまかれる融雪剤の影響であると考えられます。

・1年生にとっては、初めてのフィールドワークで緊張しましたが、調査をしていく中でたくさんの新し

い体験ができ、自然を身近に感じることができたので良い経験になりました。次回も班員としての自覚を持って行動し、全員で協力して調査を続けたいと思います。

### ◎7月5日(土)午前 夏のフィールドワーク

今回から、各班の活動テーマに沿った活動をそれぞれ行った。1～5班までは中池見での活動で、6～8班までは市内での各活動だった。



#### 【6班】敦賀の海 生徒感想より

- ・今回は、活動場所を二つ(名子海岸と松原海岸)に分けて行いました。
- ・名子海岸班では、キス6匹、ベラ5匹、ハゼ1匹、フグ1匹の計13匹を釣りました。思ったよりも釣れた数が少なかったのですが、班員で仲良く活動することができたので良かったと思っています。
- ・松原海岸班では、キス4匹、タイ1匹の計5匹が釣れました。予想としてはベラが多く釣れるかなと思っていたのですが、なぜか1匹も釣れませんでした。  
→これが当日の写真です。
- ・初めてのことが多く、手際が悪くなってしまい、無駄な時間の浪費があったことが反省点です。残念なことは、名子海岸、松原海岸ともにゴミが多かったことです。特に多かったゴミは、釣り餌パック、花火の残骸、煙草の吸殻などが挙げられます。
- ・今回の調査で考えたことは二つあります。  
一つ目は、わずかな時間でたくさんの魚が釣れたことから、敦賀の海は綺麗で、水生生物が生きやすい環境にあるのではないかとということです。  
二つ目は、海岸には人為的なゴミがたくさん落ちていたことから、人が海を汚すことに大きく関わっているということです。
- ・今回、釣りをしながらゴミ拾いを行いました。次回もゴミ拾いは続行して行い、少しでも環境浄化に努めていきたいと思っています。
- ・今回の活動を振り返ると、学年の壁を越え、班員同士で協力して仲良く活動することができたことは良かったと思います。特に、1年生とも、打ち解けられてとても良かったと思います。

#### 【8班】杉原千畝と人道の港 生徒感想より

- ・私たちの班のテーマは、昨年度、ポーランド大使の方が来校されて歓迎会を催したことがきっかけで、敦賀とポーランドの関係をもっと深く知りたいと思うようになり、決まりました。
- ・今回は、敦賀ムゼウムで杉原千畝氏やユダヤ人難民についての話を聴講したり、資料を鑑賞したりしました。
- ・今回のワークで、杉原千畝の行いやその当時の状況、ユダヤ人の歴史などを学びました。
- ・当時、リトアニアの日本領事館に勤務していた杉原千畝は、ユダヤ人だけではなく、助けを求めて来た人たちみんなにビザを発行し、その発行したビザは2132枚で、その時、6000人もの人々が助かったと言われています。
- ・杉原千畝だけでなく、樋口季一郎も給食、衣料、燃料の配給などで尽力しています。



### ◎10月4日(土)秋のフィールドワーク

今回から、各班の活動テーマに沿った活動をそれぞれ行った。1～5班までは中池見での活動であり、6～8班までは市内での各活動を行った。

#### 【4班】外来種除去 生徒感想より

- ・今回は、草木染の講習を受けて、草木染の奥深さを学びました。また、セイタカアワダチソウの除去と在来種調査を行いました。
- ・セイタカアワダチソウは、黄色い花が咲き始めていて、背丈が人の2倍ぐらいになっていました。1年でこれだけ急速に育つことがわかりました。



- ・セイタカアワダチソウは大きいものになると抜きにくいことが分かりました。
- ・また、茅ネズミの変った巣やカマキリの巣を見つけることができました。
- ・次回の冬の観察会では、草木染の体験をする予定です。楽しみです。

### ◎12月20日(土)中池見フォーラムへの参加

中池見湿地でのフィールドワークの結果を生徒たちが自分たちの言葉でまとめ、中池見に関心を持つ様々な方に報告した。国際 NGO 国際湿地保全連合のマーセル・シルビウス様から子どもたちが関心を持って研究していることを褒めていただいた。



### ◎3月14日(土)つるが環境フェアGREENPICNIC2015への参加(予定)

この学習の成果発表の場としてつるが環境フェアに出場し、8班それぞれがプレゼンテーションを行う予定になっている。

## オオキンケイギクの駆除作業について

父母師会中学部委員会(PTA)と一緒に笙ノ川付近で特定外来生物オオキンケイギクの除草を行った。この活動には敦賀市の協力を頂き、除去したものはすべて敦賀市が処分をしてくださった。またこの活動に先駆けてチラシを作り、出身小学校にも駆除活動の重要性について生徒がそれぞれの出身校で掲示依頼を行った。

## ユネスコスクール交流会について

昨年に引き続き、修学旅行の機会を利用して、北九州市立尾倉中学校と交流会を行った。北九州市は環境教育の先進県で勉強になることが多かった。また委員会活動が盛んであることを生徒が感じ、生徒会役員に立候補する生徒が出るなど学校生活でも変化が見られた。



## ESD人材育成事業モデル事業について



100年後の敦賀で世界遺産を選ぶとすれば何がふさわしいかということについて考える授業を8時間の設定で行い、福井県合同課題研究発表会では以下のようなポスター(抜粋)を作成し、福井県内の中学生と高校生に発表した。



4. 事例

世界遺産に登録する候補地

1) 中津川湿地

《世界遺産になる条件《自然遺産》》



(10) 生物多様性の本来的保全にとって、もともと重要かつ恐らく深い自然生態地を含んでいるもの。これには科学上または保全上の観点から、すぐれて普遍的価値を持つ絶滅の恐れのある種の生息地などが含まれる。



10万年分の泥炭層一層土壌中にある 日本産種のトンボの種類一ア 2種を発見
生物が多様《絶滅危惧種120種》
新種の確認《未知の生物発見の可能性》

中津川フォトリコンアスチル植物園

《比較》 数万本のトンボ王国は1985年、世界自然遺産基金日本委員会からの支援で整備。世界初のトンボ保護区。76種類されている。

《課題》  
知名度が低い。  
知っていても行かない。  
興味がないと捨て置かれる。  
私道だけで守り続けていけない。  
→PRが必要。  
→行政や自然保護団体に協力を要請する。  
→遊覧に利用すること《観望すること》が登山には必要。



教育委員会から送っている高校生に調査しました。半全員の回答率調査の結果



ii) 数箇事例1号棟

《世界遺産になる条件《文化遺産》》

(4) 人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観の傑出した例

来年度登録予定の山口九州近代化遺産群との比較

2016年	2116年(案)
名称 山口九州近代化産業遺産群	原子力関係高度経済成長化遺産群
時期 明治維新からの日本近代(1869年)	戦後からの高度経済成長(1970年)
背景 日本の重工業の近代化を支えた	日本の急増する電力需要を賄った
構成 38組で30遺産	13遺産に30施設以上

《課題》

- 高レベル廃棄物の処理方法  
→様々な研究がなされている  
(半減期の研究・地層の研究)  
⇒教育をより安全な街にできる可能性  
⇒若い研究者を育てる(になる)
- いろいろな地域とつながる  
→緩やかなネットワークを作る  
⇒東日本大震災の状況を踏ま  
⇒科学の発展と安全について話し合う。
- 世界遺産にするための整備  
→財源の確保  
→語り部作り



見学旅行訪れた家館をみて



東海高度先端地研究所見学

## E S D 優良実践事例集掲載について

昨年度から今年度にかけての活動成果を 2014 年ユネスコスクール世界大会記念ユネスコスクール E S D 大賞に応募したところ優良実践事例集に掲載していただくことになり、更にその取り組み内容が全文英語で書かれた事例集を見て、生徒たちは感動した。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ( )